

巻頭言

“面白い論文”を書こう

論文とは、学会の発行する学術雑誌あるいは大学の発行する紀要などに掲載される、研究成果などについて論理的な手法で書き記した文章のことをいう。わたしたち研究者にとって、論文を書くということは大切な業務のひとつである。どんなに素晴らしい研究をし、どんなに優れた研究成果が得られても、それらを論文にして公表しなければ、結果を他の研究者と共有することができず、また将来的に引用されることにはならない。一方で、研究成果を論文にまとめることで、新たに出した疑問や残された課題を研究者自らが明らかにすることにもつながる。

小生は縁あっていくつかの学術雑誌の編集委員をしており、月に1～2編は査読の機会がある。それらの中には、内容のレベルが高く文書もエレガントで、読みふけてしまう論文がある一方で、文献レビューも内容もお粗末で、途中で読むのをやめたくなる論文もある。論文の査読においては、研究内容が学問的に価値があるかどうかだけでなく、専門外の読者にも興味をそそる、いわゆる“面白い論文”であることが重要視される。東北大学の酒井聡樹准教授は、“面白い論文”の条件を以下のように書いている。論文を書かれる際の参考にさせていただきたい。

I. “面白い論文”の必要条件

1. 読者が答えを知りたくなる問題を提示する
2. わかりやすく書かれている
 - 1) 人の論文の真似をする（説明の仕方や文章表現はどんどん真似するべき）
 - 2) できるだけ短い論文にする（一つの論文では一つのことしか主張しない）
 - 3) 書き出しの一文に魂をこめる
 - 4) 一つの文では一つのことしか言わない

II. “面白い論文”の十分条件

1. 読者の気づかなかった問題を提示する
2. 新しい方法で問題を解決する
3. 読者が予想できない結果を出す

(<http://www7b.biglobe.ne.jp/~satoki/ronbun/kyo/korekara/korekara.html> より引用)

さて、広島国際大学看護学ジャーナルの第9巻を刊行することになった。研究報告3編、資料2編、その他1編の計6編からなっている。ジャーナルとして論文数が多いことも重要であるが、“面白い論文”が掲載されていることがきわめて喜ばしい。ご協力いただいた先生方に深謝するとともに、第10巻にはさらに多くの先生方から“面白い論文”が寄せられることに期待したい。

2012年3月

広島国際大学看護学部 学部長 島谷 智彦